

錦天満宮

入川 幹久

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

紹介

錦天満宮は学問の神様として知られる菅原道真公を主祭神としてお祀りされている。京の台所である錦市場を真正面にして新京極通のど真ん中に鎮座され、繁華街唯一の鎮守社として皆様を温かくみまもっておられる。また、地元の方々には『錦の天神さん』と親しまれ、広くあつい崇敬が寄せられている。



錦天満宮は京都の台所である錦市場の中にあり市民の生活の一部となり、とても大切な存在となっている。アクセスは阪急河原町駅から徒歩10分、京阪祇園四条駅から徒歩10分である。

歴史

「錦天満宮」の創建は「学問の神様」として知られている平安時代の学者、政治家であった菅原道真公の父親である菅原是善の旧邸、菅原院と深く関係がある。



菅原院は菅原道真公が亡くなった後に歓喜寺となり、長保5年(1003年)六条河原院に移り神護にあたり、天満大自在天神をお祀りされた。正安元年(1299年)後伏見天皇より「天満宮」の神号の宸翰を授与された。また、関白九条忠教は御殿を寄進し大いに天満宮を奉祀し、六条河原院跡を京都八幡「善導寺」に寄進、「歓喜寺」は「歓喜光寺」と改められた。このように、錦天満宮は歓喜寺(菅原院)に由来し後に「菅公聖蹟二十五拝」の第二番に位置づけられている。

歓喜光寺創建から288年後の天正15年(1587年)、豊臣秀吉の都市計画によって、時宗六条道場と称された「歓喜光寺」は錦小路の時宗四条道場「金蓮寺」の敷地に移転。天満宮は以後「錦天満宮」と称され現在の地に鎮座している。

錦天満宮の御祭神は菅原道真公、御神徳は知恵 / 学問 / 商才 / 招福 / 厄除け / 災難除けである。

錦天満宮の境内には塩竈神社、白太夫神社、日之出稲荷神社、七社之宮がある。
以下でそれぞれの神社を説明していく。

①塩竈神社

塩竈神社は源融公を御祭神とし御神徳として安産がある。源氏物語、光源氏のモデルとされる源融公は陸奥の国塩竈の風景を愛し、模して壮麗な作庭を有する六条河原院を建造し、河原左大臣と称された。後に六条河原院には源融公を御祭神として塩竈宮が創祀、この地には歓喜光寺が創建された。その後豊臣秀吉公による都市改造で天満天神と共に現在の場所へ移転された。



②白太夫神社

白太夫神社の御祭神は渡會春彦で御神徳は子授けである。
世継ぎのいなかった菅原是善が当時の伊勢神宮外宮神官であった渡會春彦を通じて伊勢神宮に祈願したところ道真公がうまれた。そのいわれから子授けの御神徳がある。

③日之出稲荷神社

日之出稲荷神社の御祭神は倉稻魂命、御神徳は商売繁盛である。
本来、「稲荷」の語源は「稻生り」からきている。そこから倉稻魂命をお祀りしている。
現在は商売繁盛の御利益があるとして信仰されている。



④七社之宮

七社之宮は一つの祠に7つの神社が鎮座している。

八幡神社	：御祭神	応神天皇
	御神徳	勝負
床浦神社	：御祭神	少彦名命
	御神徳	疱瘡除け・疫病退散
竈神社	：御祭神	竈神（奥津日子命・奥津比売命）
	御神徳	火除け
市杵島神社	：御祭神	市杵島姫命
	御神徳	家内安全
熊野神社	：御祭神	伊弉諾尊・伊弉冉命
	御神徳	子孫繁栄
恵比寿神社	：御祭神	事代主神
	御神徳	商売繁盛
事比良神社	：御祭神	大物主神・崇徳天皇
	御神徳	航海・漁業



京の名水

錦天満宮の「錦の水」は京の名水としても有名である。錦の水は地域の方々から大切にされており、朝早くから水を汲みに人々が集まっている。また、錦の水は老舗料亭の料理にも使用されるほどとても美味しい水となっている。定期的に水質検査が行われているが天然の水であるので飲む際は一度煮沸することがおすすめされている。私も錦の水でコーヒーを煎れてみたがいつもと違い美味しく感じた。また、お米をこの水で炊くと美味しいらしいので一度試してみたい。



錦天満宮と祇園祭

また、錦天満宮は祇園祭中の神幸祭、還幸祭の際に久世駒形稚児様に立ち寄られる。神幸祭は神輿が八坂神社から御旅所へ向かい、御旅所から八坂神社境内へ戻るのが還幸祭となっている。

神幸祭は八坂神社三基の神輿が氏子区域内をそれぞれ所定のコースに従い渡御。午後

8時から9時ごろまでに四条御旅所に到着。以降24日まで御旅所に留まる。

なお、三基の神輿の御祭神はそれぞれ素戔鳴尊（中御座）、櫛稲田姫尊（東御座）、八柱御子神（西御座）となっている。

錦天満宮では例年綾戸國別神社の久世駒形稚児の参拝が行われている。久世駒形稚児は古来から祇園祭神幸祭の先導役とされ、古文書には「御神幸の七月十七日に訓世の駒形稚児の到着なくば、御神輿は八坂神社から一步も動かすことならぬ。若し此の駒故なくしてお滞りあるときは、必ず疫病流行し人々大いに悩む。」と記されている。還幸祭の際も久世駒形稚児様の参拝が行われている。

最後に錦天満宮の鳥居は錦小路通の寺町と新京極の間にある。実際足を運んでよく観察してもらうとわかるのだが、鳥居の一部がビルの中にめり込んでいる。原因としては1935年に鳥居が建てられた後、鳥居上部の両端を考慮せずに柱の位置だけで道路幅を決めてしまい、その区画を基に両側にビルが建てられたことである。ぜひ、錦天満宮に訪れた際は水を汲んだり、菅原道真公に会いに行くだけでなく、鳥居がビルにめり込んでいる姿を観察してみるのもおすすめだ。



引用文献

<https://nishikitenmangu.or.jp/>

<https://www.travel.co.jp/guide/article/19968/>

<https://www.yasaka-jinja.or.jp/event/gion02/>

https://www.okeihan.net/recommend/natsumatsuri_gion/mikoshi/

<https://kyoto-design.jp/special/gionmatsuri/mikoshi>

<http://www.nishikitenmangu.or.jp/information/2018/07/post-143.html>

<https://kyototravel.info/gionmatsurichigo>

<https://onl.sc/uiRR72w>

<https://kyoto-shrine.com/nisikitenmangu-torii/>

<https://kyoto-nara.jp/kyoto-funnyspot-nishikitenmangu>

写真：<https://onl.bz/6UeuUam>

<https://onl.bz/y3cP9ef>

<https://onl.bz/Aw6Z8PX>

<https://onl.bz/maXPBQg>

<https://onl.bz/xKKrmXZ>

<https://onl.bz/cyq5Eku>

<https://onl.bz/65EF4xt>

<https://onl.bz/zkXRc7V>